

2016年5月25日、防災まち歩きで恩田町の徳恩寺を訪問し、ご住職の鹿野融完様にお話をさせていただきました。

「熊本災害ボランティアの現場」

徳恩寺 住職 鹿野融完

✚ 熊本へ行きました

少々お時間をいただいてお話をさせていただきます。熊本へ行った話です。直近先月の14日、16日に熊本が震源とされる地震が発生し、まだ1万人近い方が避難されている状況です。避難所にいる方がこの人数で、実際にはもう数千人避難の方がおられるかと思います。それは行政の統括管轄からすれば致し方ないことなのでしょうが、今、まだ、車中で避難生活をしたり、テント生活の方々がおられます。



✚ 避難状況を考える 一通りではない避難パターンがあります

- 1) テント生活も行く通りかのパターンがあります。籍は避難所にあるけれども子どもがいたり、うるさくて迷惑をかけるかもということで平素は車中にいたり、テントにいるという人たち。救援物資がある、炊きだしがある、お弁当がある場合は、校庭から避難所の方へという人たちです。
- 2) 自分たちでやらなくてはダメだと思っている人たち。行政の世話にはならないということで自主的にテント村を設置して自主的に動いている団体もあります。それが50コ、80コのテントを張ってやっているところもあります。行政が知っているのは、行政がお弁当を配布している、救援物資を配分するという範囲で把握している人数です。
- 3) 自主避難の方々もいます。地震が発生して二週間ほど経過すると全国から応急危険度判定士¹が来て、家に色紙を貼ります。(赤、黄色、緑)これを貼られると、実は効力はないのですが。というのは、これは基礎を見たり、柱を見たりして判断しているのではないのです。外観で判断しています。外観で10度傾いている、一階がつぶれている。こういうのは分かりますが、外壁がはがれているが柱はしっかりしている、基礎も実はしっかりしている。でも外壁が剥落している。天井が落ちているから黄色が付く。これは基準があるようで無い。じつは青いから大丈夫かということ、梁や基礎、全部建築士が見ている訳ではありません。一応安心。生活しても問題はないでしょう、ただし注意してください・・・という家として三種類に分けられます。益城町はほとんどが赤です。

✚ 益城の町並みは

益城というのは非常に豊かな町です。統廃合の合併があって、益城にもいろいろ部落や字が付いているところがあります。木山、安永とか集落があって益城郡益城町になっています。なぜ町として裕福かというと、熊本空港があります。自衛隊があります。そのため助成金が村にはたくさんはっている。昔からの家が多く、農家が多いのです。農家の家というのは玄関、土間、大きな広間があり、そこが2階建になっている。また熊本九州は台風の通り道。この台風の通り道で古い家屋となると瓦が重くしま

¹ 応急危険度判定講習を受講し、県に登録された方でボランティアとして判定活動を行う建築技術者

す。このことが今回は災いしています。14日にドンと来て、さらに16日に本震が来て、重い瓦がゆすぶられて家がつぶれたというところがほとんどです。新しい家、新建材でできている家は案外丈夫でした。古い木造の家、免震構造のところ、震度6、震度7までは大丈夫ですよ・・・という家。

✚ 災害保証からみると

ところでこの保証というのは、何回までの保証だと思いますか？ 1回だけの保証なのですよ。震度7がドーンとききました。これはつぶれません。二日後に強い地震が来て、これに対する保証は無いのです。メーカー保証というのは、つぶれてしまったものに対して保証するというのもありますが、一般的には地震が来て大丈夫ですよということだけです。つぶれたから保証します・・・というのは無いのです。補填をしますというのは特約でもない限り無いのです。地震保険なんかは九州の人たちはほとんど入っていない。二回の地震があってもつぶれなかった家もあります。しかし、昨日も震度3が起きています。最初から数えるともう2000回ぐらい起きています。常にぐらぐら揺られている。根元が揺さぶられている。昔みなさんは棒倒しという遊びをしたことがありませんか？ 残り（の砂）が少なくなると、少しずつ取るじゃないですか。あんな感じですよ。ようやく立っている家が、常に震度2や3でくらくら揺さぶられている。根元を削られている。

✚ 水の道ができる

上水道、下水道は、地下水をくみ上げています。機械が壊れていますから、常に水が流れているような状況です。そうすると水の道ができます。水の道はアスファルトにはできません。側溝と家の間、隙間を流れていきます。弱いところです。建物の基礎のところに水の道ができるのです。上水か下水かは分かりませんが、できます。3回行っているのですが、本当に天気の良かったのは3回目だけでした。後は天気が悪い。雨はどこに流れるかというところ、そういうところ。基礎がやられてしまいます。今は立っていても、基礎から直さなくてはならない家がいくつもあります。

✚ 屋根の上のブルーシート

ブルーシートをかけます。これから台風のシーズンです。みなさんはブルーシートの耐用年数をご存じですか？（知らない・・・）ブルーシートの上に土嚢を載せて押さえます。土嚢の耐用年数をごぞんじですか？ 一般的なものは、一年。一年たつと繊維が切れて使えなくなります。暗い所で使わないで置いておくと約2年。うちでも土嚢を買い込んだ。知らないからですね。物置の日の当たらないところに置いておいたのですが、いざ使おうと思ったら繊維が切れて使えない。ブルーシートも1年。薄いのも厚いものもあります。このブルーシートで屋根から水が入らないように屋根を覆うのです。風にあおられて動きます。瓦とこすれる。3か月です。3か月たつと張り替えなくてはならない。かかってない家は大丈夫なのかというところではないのです。ダメな家です。外観は大丈夫でも家の中が全部崩れている。基礎がずれている。建て替えるしか仕方ない家にはブルーシートをかけません。せめて家財道具を出して筆筒や使えるものをまとめてブルーシートを掛けて臨時の物置にしています。

✚ 遠く離れた炊き出し

炊き出しをしました。5月の連休に行きました。お寺を出たのが8時半。車で行きました。炊き出しをするための食材なども積むので車を使って3人で行きました。ほぼノンストップで12時間。休んだのはトイレと夜中に食べるサンドイッチを買うため。12時間の食事は全部車中。1,200キロの距離です。時間がかかるのです。12時間で行くと5時間では、帰って来られない。というのは移動時間として丸24時間必要になります。活動時間を削らないためには夜っぴいて走っていく。向うでのお手伝いも夕方のぎりぎりまでやって、そこから夜中走って戻ってくる。睡眠時間を削らないと向うでの活動時間がで

きない。こういう基本的な問題がこの熊本地震にはある。

✚ 熊本地震から私たちは何を学ぶべきか

実は、地震だけの災害というのは阪神以降でも数えるぐらいしかない。ボランティア元年といわれた阪神の地震でも、死亡者が多かったのは火災によるものです。朝ごはんの用意をする、お弁当を作る時間。長田区は全焼しました。都市ガスの問題もあります。6300 人もの方が亡くなりましたが、火災で亡くなったかたも含まれています。

東日本では地震もありましたが、津波がありました。地震単体でいうと、中越地震、中越沖地震、能登地震。日本海側で起きた地震は地震単体ですから、死亡者数は低いのです。今回の熊本地震もみなさんが「あれっ」と思われたのは、死亡者数が少ないということでしょうか。少ないといっても 50 人近い人たちが亡くなっています。これはドーンという 14 日の地震では亡くならなかった人もそうだった人も。2 回目の時は用心していましたが、50 人の方が亡くなりました。私たちはどうしても数字を見てしまう。

✚ 炊き出しボランティアの課題 — 衛生管理 —

2 回目に訪問した直前に食中毒が発生しました。業者が作ったおにぎりでした。業者のおにぎりでも配達した先の小学校で 22-3 人の方が食中毒になりました。それ以降、行政が炊き出しに関して非常に縛りかけるようになりました。やっちはダメではなく、炊きだしする側として、炊きだしの場所、必要とすることが先に決まっています、それに対してやってほしいということです。押し売りはダメだということです。

私たちはボランティアというと、すぐに炊き出しを思います。効果がすぐに目に見えるということで、着目をしがちですが、実は炊き出しもしっかりニーズ調査をして、必要だということだけでしか炊き出しをしないで欲しいという沙汰がありました。実際に炊き出しをすることを報告すると、保健所は来る、行政は来る。人が大勢きて、責任者はだれかとか設備はどうなっているのか、消毒液はあるか、マスクはあるか・・となります。生ものはダメです。「必ず火を通してください。」といわれます。お寺ではお供物をいただいています。その時にできたら生の果物ではなく缶詰をいただくようにしています。そのフルーツ缶をたくさん備蓄しています。これを熊本へ持っていきましたが、4 か所で炊き出しをして 2 か所でこのフルーツ缶はダメでした。缶詰であっても生だということでダメでした。火が通っていないからだめだと。これが行政なのです。みなさんの家庭では缶詰は備蓄で大丈夫です。が NPO や市民団体が炊き出しをしようとしたときにもし食中毒が一件、具合が悪い人が出たら、全体の炊き出しに影響してしまう。衛生管理の用品をそれぞれの自治会やボランティア団体が持っているかということです。それも備蓄しなくてははいけないのです。

✚ 衛生管理と責任

自治会などでは備蓄をしています。戸数に合わせてアルファ米なんかを備蓄しています。味噌汁がある、炊きだしの準備がある。その中にビニール手袋、帽子、消毒液（手と食器）がありますか？。もの食って腹壊すのはしょうがないかとも思うのですが、起きた場合は、全体の責任問題になるのです。常々思うのですが、行政が一番心配するのは、この責任問題なのです。致し方ないのだと思います。私が弟とトラックに飛び乗ってやるのとは違うのです。首長がいて、組織図があって皆が動く、縦割り行政との避難があっても。事故が一件あって、食中毒で人が亡くなったら誰が責任をとるのか。いうのは簡単ですが、賠償されたらどうするのか・責任者はあなただけれども許可したのはだれか・・となります。

青葉区でそういうことをやっているのか・・・益城でこのことを突き付けられました。

「責任」というのは大切なことなのだと。阪神大震災の時はこういったことは一切ありませんでした。

阪神は1月17日、中越は10月22日だったか・・炊き出しができる期間は長くて5か月。阪神大震災の時は5月の末では炊き出しをやめてくれと言われました。食材が痛むから。梅雨の時期なのでやめましょうと。 ですので、熊本もよほど慣れてるところ以外は、5月いっぱい炊き出しは減少するでしょう。衛生管理によほど長けているところ以外できない。鹿島東小学校で炊き出しをしたら、横浜市の保健所の方に会いましたし、他のところへ行っても横浜市からの職員に会いました。そんなこともあって炊き出しを認めてもらえたということもありました。そういうこともありましたが、横浜市がこのことをどこまで把握していたのかと思います。

✚ 防災計画と町の特徴・特質

横浜市民の数は370万。熊本市の何倍でしょう？ 面積はどうでしょう？ その比較をきちんとしておく必要があります。横浜市青葉区はどうでしょう？ 都筑のマンションの問題もありましたね 老人ホームいくつありますか？ 人口だけではなく、そこにどんな人が住んでいるのかもっと緻密に把握して検討していかななくてはならない。 みなさん、青葉区で顔が広いでしょ。区長にいうことが出来るでしょう。ぜひこの検討を始めて欲しい。地区ごとに備蓄をしている。本当に足りるのか？

✚ 青葉区は日本の動線の要

青葉区の役割は住民を守るだけでなく、日本の動線である。ということです。東海沖地震が発生したら東京は壊滅的になる。どこから支援物資がくるのか、応援が来るのかということです。東海沖地震の時にどこまでライフラインが残っているかは分かりませんが、西からの動線、東からの動線、重要になってきたとき横浜市に、青葉区に主要道路が何本あるのでしょうか？ 246号線、東名高速、第三京浜、湾岸線、電車、新幹線、東海道線、小田急線、横浜線、少し離れて中央線もある。都内で仕事をしている人は、どうやって帰宅しますか。246号を歩いて帰ります。ここは通過点なのです。ここを経由しないと物資も入らないのです。人も出て来られない。東名高速で考えた場合、川崎インターの前に大きな建物何がありますか？ 川崎市場だけです。横浜インターの前には何がありますか？ 町田インターの前に何がありますか？ 広場なんかほとんどありません。物流の核となる場所が無いのです。青葉インターには？ 広いのです。グラウンドがあります。空き地もあります。広いです。青葉区の対応によって大きですが、日本の存亡にかかわると思っています。青葉区が中心になってやらないと、ここから発信する、受け入れるぐらいの緻密な組織図であって、縦割りでもなんでも対応することができないと日本のすべてが混乱してしまう。

✚ 人は、食べたら出す 大きな課題

横浜市の住人373万人・青葉区が31万人²。この青葉区31万人の腹を満たすことをどうするのですか。さらに食べることは我慢が出来ても、出すほうはどうするのですか？ 本当につらいですよ。私は男だから小の方はまだいいですよ。女性はどうしますか・備蓄倉庫の中に簡易トイレがありますがそれどこに置きますか？ 処理したものをどこに置きますか？ そのままで各自治会、各組織が検討しているのでしょうか？ お寺は穴を掘ればいいんです。でも公園に避難している所で穴を掘ってそこにというのはできません。阪神大震災の時に22日に現地に入りました。神戸に入るのに24時間かかりました。東灘というところで一番にした仕事は・・なんでしょう。人間ってスゴイですよ。公園に洋式便所があるのです。和式じゃないでしょ。座る便座があるでしょう。便座から盛り上がっているのですよ。これ。どうやってしたんだろう・・って。それをスコップで。一番下はもうカチカチです。アフリカで牛の糞で家を作のがわかるなど。我慢できない。悪臭。不衛生。手を洗うことすらできない。私は食べることは、餓死しません。水がなくても1週間は生きられます。そのあと入院しなくてはなりません。そう

² <http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/jinko/news-j.html>

いうことを最悪、最低を想定するのが備蓄、災害に対する心構え。どこまでやるかは分かりませんが、やらなくてはなりません。やり過ぎていていいじゃないですか。

✦ 備蓄品はお守り考える

備蓄品はお寺のお守りと同じですよ。お守りです。金運成就のお守りを持っていたら7000万当たりますか。交通安全のお守りを持ってたら交通事故に絶対会いませんか。そうなった時に事故おこっちゃったけど、お守りあったからケガが無くて良かったねと。7000万当たらなかつたけど、お守りもってみんなで楽しくやって楽しかった。備蓄あんなにそろえて無駄になるかもしれないけれど。買って余ったらもっとひどいところに援助したげましょうよ。それが備蓄の本質だと思う。

✦ 備蓄品の入れ替えについて

熊本地震でもうひとつみなさんに考えてもらいたいことがあります。みなさんは備蓄を何月何日に買いましたか？考えなくてはいけませんよ。熊本地震である学校が全校生徒分の水、食料を備蓄しています。待機児童のためです。これを提供したいというので取にいったのです。使用期限が5月。なぜそうなるか・・・年度で行くからです。入学者数が分かるのが5月。そこから発注するのです。5月末。使えませんか。厳密には生活雑排水として使いました。使える水が使えない。年度で行くので使えないのです。いつ買っても同じだと思われそうですが、違うのです。役員の改正はいつします？3月に改正して4月から新役員。引き継ぎがあやふやになる。9月までにしてほしいという、半年残るので役員にこれ配りましょうということができる。家庭で消費してくださいということが出来ます。もしくは一個100円でいいから買い取ってくださいーということが出来る。家庭で防災訓練ができる。役員が常に引き継ぎをして、保存期間があるのを確認してどうにかしましょうと、新しいものを買入れるために原資を作りましょうと。原資をつくるためにはただ防災訓練をして頭巾をかぶるのではなくて、みんなでそれを食べる訓練をしましょう。参加費をいただきましょう。そういうプレゼンスが必要じゃないでしょうか？

✦ 活動を続けるためには

みな元気な人ばかりじゃない。意識の高い人ばかりじゃない。温度差を確実につかんで、出来ないこと、できること。やりたいこと、やりたくないこと。人によってありますよ。でもその温度差は薄めるしかないのです。沸騰したお湯、冷たい凍り水、混ぜて50度でいいじゃないか・・・50度にすることが大切だと私は思います。ただ50度になっても、いつも瞬間湯沸かし器ですぐに100度にできる人がいなくてはいけない。50度で満足する人は温度を下げてしまう。50度が45度、ああ40度に成っちゃったという時にこっちで、50度に引き上げる人がいないと。防災だけじゃないですよ、市民活動でも言えます。出発する時はいつでもみなイケイケどんどんでやりますけれど、温度が下がってぬるま湯になって真水になるようでは意味がない。どうして防ぐかという瞬間湯沸かし器が必要なのです。熱意、エネルギーが必ず必要なのです。

✦ なぜ、益城に行くのか。

倒壊した家があって、出せない家財があります。瓦をはがして、チェーンソーで四角い穴をあけます。2階の畳をはがして、床板を50センチ四方ぐらい開けて1階に潜ります。見取り図を書いていただいて1軒で3点だけ。お仏壇がある、現金がある、通帳があります。お父さんが買ってくれたビトンのバッグがあります。悪いけど筆筒の裏にへそくりがあります。戻ってきても家族にわたさないでくれ・・・お仏壇から位牌をとってくると、おばあちゃんが、これで安心しておじいちゃんのところへ行ける。亡くなった息子から買ってもらったバッグを胸に抱いて、さめざめと泣いているお母さん。85歳の大工さんがいます。10年前まで建設業者へ行っていました。大切に使用していた大工道具の納屋がおうちでつぶ

されそうになって。おうちをみんなで崩して、大工さんが作ったおうちを、全壊したとはいえ、思い出が詰まったおうちを重機でバリバリつぶさなくてはいけない。それでも大工道具が欲しい。「分かりました」。泣きながらおうちが崩れる。絶対に出すんだって。のこぎりが出てきた。カンナが出てきた。電動工具が出てきた。今大工さんの道具で一番大事なのはなんだかご存じですか？ インパクトっていうんですよ。(インパクトドライバー)ねじ回しです。買えば1万円か2万円ぐらいなものなのです。木ねじを埋め込むものです。買えば2万円じゃないかと。でも何も無くなった人が2万円出しますか？プラスチックのバケツが一つあるのです。こっちからしたら汚れているし、ひびが入っているからもう要らないんじゃないかと思うでしょう。引っ張り出そうとしている。姿見があります。後ろ半分割れちゃってます。それでも何とか出して使おうとするんです。それが被災者の心理です。ものがもったいない・・けちんぼじゃない。その鏡にどれだけの思い出が詰まっているのか。そのバケツ一個で孫が遊んだ姿が詰まっている。ハンカチ一枚でいい。母の日の子どもの思いがある。おじいちゃんのインパクトが出る。おじいちゃんがひとこと「道具がそろった。これでもう一回家が建てられる。」85歳のおじいちゃん。建てられないかもしれない。でももう一回前向きに生きていこうと思ってくれたことが一番大切だった。

✚ 動かすもの - ころころ -

ボランティアってお金でも物でもない。最後に何が必要か。「ころころ」です。どれだけ被災している方に対して近い場所に立ってられるか・・それをぶれずに、最後まで貫き通せるか。ボランティアの資質ってそれだと思います。炊き出しをしたら誰でも喜んでくれるのは当たりまえじゃないですか。でもそれを自分がやりたいからやるのか。必要とされるからやるのか。まったくちがう。「何が食べたいのか」そこまで思いが至っている炊き出しのボランティアさんがいますか？っと。炊き出しというのを思い浮かべますか？ トン汁？カレー？ 最初の三日、一週間はいいですよ あったかいものが食べられる。毎週違う団体がくる。一度、無茶をしたことがあります。東日本の時、ある中学校に行っていました。毎週のように。そこは週に一回だったのですが、ようやく顔を覚えてもらって、よく来たね・・と。それでリクエストを聞いたのです。そしたら、揚げたての揚げ物が食べたい。コロッケが食べたい、メンチカツが、から揚げが食べたいと。おばあちゃん弁当の中にはいってるんじゃないよ・・と思いました。揚げたてが食べたいって。聞いてしまったので、フライヤー持って行って、フライパンやら中華鍋やら持って行って被災地の校庭で揚げ物大会。冷凍食品を持って。おばあちゃん喜んでもらった。でもソースないのって聞かれて。慌ててコンビニへ行って買った。もう少し緻密さっていうか、もう一步。ソース一本でも、もう一步です。おばあちゃんアツアツのコロッケ食べてうれしい。じゃあ自分がコロッケを食べる時はどうするか・・って。ああケチャップかソースだよね。思いが至らなかった。喜んでくれたけれど、自分の反省として、なんでもう一步、もう半歩努力しなかったんだらうかって。もうちょっと寄り添わなかった。いつも行くと帰り道は反省ばかりです。向うに24時間かけて行って、仕事が充実したというか満足に行くことを、お手伝いをして帰ってきます。道すがらの道では膨らんだ気持ちやしぼんで、うれしかった気持ちがやり切った思いが溶け失せて、もう一回行こう、もう一回行こうと。ただ7月8月は、お寺は稼ぎ時なんです。なんとか6月中にあと2回ぐらい行きたいなあと思ってはいはいます。

✚ 被災するとまちは変わる。青葉区は大丈夫か

益城のまちは一変してしまった。この青葉区横浜の風景も、もしかしたら、災害が起きたら一変してしまうかもしれない。もう一つ横浜の心配なことは、みんなが被災を受けたこのまちに戻ってこられるかということです。都市災害というのはそういうものです。一番の例は石巻です。亡くなって人口が減っているではありません。今も常に減少傾向です。石巻市というのは宮城県では二番目の都市です。

若い世代がたくさんいた都市なのです。若い人がどんどん外に出ていく。横浜青葉区は人口分布がまんべんなくあるすばらしい都市だと思います。けれども転入してきた方が、被災地になってしまったこの場所をみんなで復興していこうと思ったださるかどうか。田畑があれば違うと思います。学校が再開されます。住むところが保証されます。青葉区に仮設住宅がどれくらい建つでしょうか。そのためには何をしておくのでしょうか。今隣近所で地域性というのがどこまで育まれているのでしょうか。防災というのは、ものがそろえば良いというわけではありません。心と心が日頃から結びついているかです。

この一字でしょう。最近自治会名簿がないのですね。もらえないんです。うちも自治会には入っているんで自治会名簿をくださいと自治会の人に言ったのです。個人情報でだめなんです。青葉区全部そうだと思います。あそこのおうち、おばあちゃんが居ることを知らない近所。日中共働きで、子どもが外に行って学校に行って一人で生活しているおうちがある。その人が避難所に来なかった時に気が付くおうちが何軒ありますか。それが防災の基本ではないでしょうか。益城の人たちはすばらしいです。あそこのおばあちゃんが居ない。一軒だけつぶれそうになってしまった家がある。そのうちにご主人が車椅子なんです。自分の家が大丈夫だと確認した瞬間、回り三軒のおうちの旦那さんが走り出してその車椅子のご主人・横倒しになっていたのですが。梁を持ち上げて玄関の戸を蹴破って出してくれた。そういう情報を把握している。環境を把握している地域であるかどうか・豊かな町に必要とされていると私は感じます。益城を見て帰ってきて改めて考えます。